

南極地域観測への参加及び南極地域観測統合推進本部の設置について

〔昭和30年11月4日〕
閣議決定

- 1 昭和30年10月25日の閣議において日本学術会議会長から内閣総理大臣あて国際地球観測年における南極地域観測への参加についての要望書が報告され、政府としては、この要望の主旨に沿って、南極地域における地球物理学的諸現象観測（以下「南極地域観測」という。）に参加したところであるが、その後の南極条約の締結等の南極地域をめぐる国内外の諸般の事情を踏まえ、引き続きこれを実施することとする。
- 2 南極地域観測の準備及び実施を統合推進するため、南極地域観測統合推進本部（以下「本部」という。）を文部科学省に置く。
本部の任務及び組織は次のとおりとする。
 - (1) 任 務
本部は、南極地域観測の準備及び実施について、関係各行政機関との連絡協議及び南極地域観測の計画策定等その統合推進に関する事務を行うものとする。
 - (2) 組 織
本部に、本部長、副本部長、委員及び幹事を置く。
本部長は、文部科学大臣をもって充てる。
副本部長は、次に掲げるものを文部科学大臣をもって充てる。
 - 1 文部科学事務次官
 - 2 本部長が特に指定する関係省庁の事務次官委員は、次に掲げるものをもって充てる。
 - 1 日本学術会議事務局長
 - 2 総務省情報通信政策局長
 - 3 外務省大臣官房地球規模課題審議官兼国際協力局大使
 - 4 財務省主計局長

- 5 文部科学省研究開発局長
 - 6 厚生労働省健康局長
 - 7 農林水産省総合食糧局長
 - 8 水産庁長官
 - 9 経済産業省産業技術環境局長
 - 10 国土交通省海事局長
 - 11 国土交通省航空局長
 - 12 国土交通省国土地理院長
 - 13 気象庁長官
 - 14 海上保安庁長官
 - 15 環境省地球環境局長
 - 16 防衛庁人事教育局長
 - 17 学識経験者のうち文部科学大臣が委嘱するもの若干名
- 幹事は、関係各行政機関の職員のうちから文部科学大臣が委嘱する。

- 3 文部科学大臣は、南極地域観測を実施するため、次により南極地域観測隊（以下「観測隊」という。）を編成する。
 - (1) 観測隊は、南極地域観測の実施及びそのために必要な要務を行う。
 - (2) 観測隊は、隊長、副隊長、及び隊員をもって組織する。
 - (3) 隊長は、観測隊を統括し、副隊長は、隊長を補佐し、及び隊員は、隊長の命を受け観測隊の用務に従事する。
 - (4) 隊長、副隊長、及び隊員は、文部科学大臣が委嘱する。
- 4 本部の庶務及び観測隊の用務の遂行に伴う事務は、文部科学省研究開発局において処理する。

(別紙2)

南極地域観測の継続について

(昭和35年9月2日)
閣 議 了 解

昭和33年7月11日の閣議決定「南極地域観測の実施について」により、国際地球観測年終了後も引き続き継続中の南極地域観測は、さらに1か年継続実施したのち打ち切ることとし、その準備及び実施を統合推進するための組織ならびに南極地域観測隊の編成及び運営については従前の例によるものとする。

なお、その後の南極地域観測の実施および観測によって得られた資料の整理・保管・研究等のための措置についての検討は、南極地域観測統合推進本部が当たるものとする。

(別紙3)

南極地域観測の再開について

(昭和38年8月20日)
閣議決定

- 1 昭和35年9月2日の閣議決定により、打ち切られた南極地域観測は、諸般の準備完了をまって再開するものとする。
- 2 これが実施のため、常時観測体制を確立することとし、輸送(船舶、航空機等によるものをいう)は、運輸省の協力を得て、防衛庁が当たるものとする

自衛隊法、自衛隊法施行令（抜粋）

自衛隊法（昭和二十九年六月九日法律第百六十五号）

（南極地域観測に対する協力）

第100条の4 自衛隊は、防衛大臣の命を受け、国が行なう南極地域における科学的調査について、政令で定める輸送その他の協力を行なう。

自衛隊法施行令（昭和二十九年六月三十日政令第百七十九号）

（南極地域観測に対する協力の範囲）

第126条の15 法第100条の4の規定により南極地域における科学的調査について協力を行なう範囲は、次の各号に掲げるとおりとする。

- 1 船舶及び航空機により、本邦と国が南極地域に設ける基地との間において、同地域における科学的調査に従事する者及びその調査を行なうために必要な器材、食糧その他の物資を輸送すること。
- 2 南極地域における科学的調査を行なうために必要な雪上車を設計し、及び試験すること。

自衛隊が輸送を担当することとなった経緯等

- 昭和30年11月 閣議において、南極地域観測事業の開始を決定。
文部省に「南極地域観測統合推進本部」を設置。
- 昭和31年11月 海上保安庁南極観測船「宗谷」により第1次隊出発。
- 昭和35年 9月 閣議において、南極観測を第6次(昭和36年出発)をもって打ち切ることを了解。(海上保安庁南極観測船「宗谷」の船齢の限界)
- 昭和38年 8月 閣議において、昭和35年9月2日の閣議決定により、打ち切られた南極地域観測は、諸般の準備完了をまって再開するものとする。輸送は、運輸省の協力を得て、防衛庁が当たるものとすることを決定。(南極観測船統合推進本部が、ヘリコプター要因の確保等の観点から、防衛庁が輸送を担当することが適当と判断)
- 昭和39年12月 臨時国会において、自衛隊法を改正し、第100条の4を追加。
- 昭和40年11月 砕氷艦「ふじ」により第7次隊出発。(以後、第24次隊まで、毎年度、砕氷艦「ふじ」により輸送を実施)
- 昭和58年11月 砕氷艦「しらせ」により第25次隊出発。(以後、第49次隊まで、毎年度、砕氷艦「しらせ」により輸送を実施)

南極観測基地の施設等

1 昭和基地

昭和基地は、1957年(昭和32年)1月29日に第1次南極地域観測隊により、東南極のリュツォ・ホルム湾東岸の南極大陸氷縁から西に約4km離れた東オングル島上に開設された。

東京からは直線にして約14,000kmの距離にあり、天測点の位置は、南緯69度00分22秒、東経39度35分24秒、標高29.18mである。

施設は、直接岩盤上に建てられ、管理棟、発電棟、居住棟、観測研究棟、環境保全関連施設、衛星受信棟、倉庫等延床面積約6,770㎡の建物からなり、約40名の越冬隊員が1年間の観測活動を送るための必要な施設と設備が整っている。

2 みずほ基地

みずほ基地は、1970年(昭和45年)7月21日に第11次南極地域観測隊により、みずほ観測拠点として開設され、1978年(昭和53年)3月22日にみずほ基地と改称された。

昭和基地から南東に約270kmの南極大陸みずほ高原の氷床上にあり、その位置は、南緯70度41分53秒、東経44度19分54秒、標高2,230mである。

施設は、年々の積雪により現在では雪面下に埋没しているが、居住棟、観測棟、倉庫等の延床面積約100㎡の建物と、約400㎡の雪洞からなっている。

第13次隊から第27次隊まで越冬観測基地として使用したが、現在は無人観測基地及び内陸への中継点として使用している。

3 あすか基地

あすか基地は、1985年(昭和60年)3月26日に第26次南極地域観測隊により、あすか観測拠点として開設され、2004年(平成16年)4月1日にあすか基地と改称された。

昭和基地の西南西約670kmのクィーンモードランド地域の氷床上で、観測船しらせが進入するブライド湾から約155kmに開設され、その位置は、南緯71度31分34秒、東経24度08分17秒、標高930.5mである。

施設は、主屋棟、発電棟、観測棟等約430㎡の建物からなり、1987年(昭和62年)2月(第28次隊)から1992年(平成4年)1月(第32次隊)まで越冬観測を行った。

4 ドームふじ基地

ドームふじ基地は、1995年(平成7年)1月29日に第35次及び第36次南極地域観測隊により、ドームふじ観測拠点として開設され、2004年(平成16年)4月1日にドームふじ基地と改称された。

昭和基地の南約1,000kmのクィーンモードランド地域の氷床最後部にあり、その位置は、南緯77度19分01秒、東経39度42分12秒、標高3,810mである。

施設は、発電棟、食堂棟、居住棟、観測棟、医療・居住棟、ドリル作業室、掘削制御室、通路、避難施設等の総床面積約419㎡の建物と、他に深層掘削用の深さ4m長さ22mのトレンチ、氷床コア処理・実験室等の雪洞からなる。

海上自衛隊が行う南極地域観測協力の概要

10月下旬～11月上旬 観測隊物資の搭載



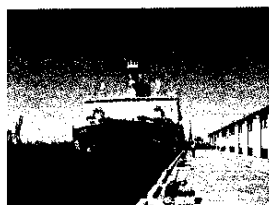
南極に輸送する約千トンの物資を搭載します。

11月中旬 東京晴海埠頭出港



家族や関係者の盛大な見送りを受け出港します。

11月下旬 豪フリーマントル寄港



空路到着した観測隊員が乗艦します。

12月上旬 暴風圏通過



南緯40～60度にかけて、次々と発達した低気圧が通過する海域を進みます。

12月上旬～中旬 海洋観測支援



氷海に到着するまで連日、観測隊の行う海洋観測を支援します。(復路においても同様の支援を行います。)

12月中旬 氷海に進入



氷の状態は、時と場所により大きく異なるため、慎重にルートを選定して氷海に進入します。

12月下旬 昭和基地到着



氷に穴をあけ、角材を打ち込みロープで船体を氷に固定します。

12月下旬 氷上輸送



大型物資を氷上に降ろし、雪上車でけん引して輸送します。

12月下旬 パイプライン輸送



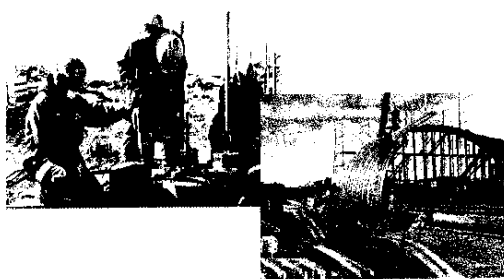
昭和基地までパイプラインを敷設して1年分の燃料を輸送します。

1月上旬～1月中旬 空輸



ヘリコプターで食料や観測器材などの物資を昭和基地へ輸送します。

1月上旬～2月上旬 基地作業支援



昭和基地での建設工事や機器の保守整備等を支援します。

1月下旬 持ち帰り物資の搭載



収集した研究資料や日本での整備が必要な器材、廃棄物等を、搭載します。

～2月中旬 野外観測支援



観測隊員・器材等を大陸や周辺の観測拠点に空輸します。

2月中旬 昭和基地沖発



基地に残る越冬隊員に見送られて昭和基地沖を離れます。

3月下旬 豪シドニー寄港



観測隊員が退艦し、空路帰国します。

4月中旬 東京晴海埠頭入港



南極から持ち帰った物資を陸揚げして、約5ヶ月にわたる任務を終了します。



皇太子向妃両殿下をお迎えし挙行された「ふじ」進水式。



暴風圏では、船が大きく傾くため鍋やかんなど全て天井から吊り下げて配食した。

- 1965(昭和40年)
 ・3月18日「ふじ」進水
 ・7月15日「ふじ」就役
 第7次行動
 ・11月「ふじ」初航海に出港
 ・12月「ふじ」昭和基地沖に接岸 昭和基地再開

- 1967年(昭和42年)
 第8次行動
 ・2月東オングル島見晴らし岩付近に「ふじケルン」(砕氷艦「ふじ」記念碑)建立
 第9次行動
 ・12月19日越冬隊員南極点到達

- 1969(昭和44年)
 第11次行動
 ・パイプラインによる昭和基地への直接燃料輸送に成功
 ・「みずほ観測拠点」設置

1964年(昭和39年)
 ・自衛隊が輸送協力を行うための自衛隊法改正。

1963(昭和38年)
 ・南極地域観測を再開すること及び輸送を防衛庁が行うことが閣議決定される。



昭和基地に接岸(昭和基地への荷揚げや燃料パイプライン輸送の適地に到達することができなため全面空輸依存方式にて物資を輸送した。(第12次～18次行動)



「ふじ」に樺太大が乗座したのは、第7次行動の1回のみであった。



昭和基地に設置する燃料タンクを「ふじ」乗員と観測隊員が人力で引いている珍しい光景。



氷の状態が厳しく砕氷航行が困難となり、航路を開くため人力で砕氷作業を行うこともあった。

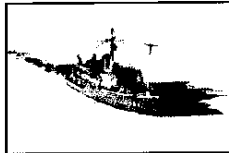
- 1976(昭和51年)
 第18次行動
 ・「ふじ」延べ500人の観測隊員及び5000^トを超える物資輸送を達成

- 1977(昭和52年)
 第19次行動
 ・「ふじ」8年ぶりに昭和基地沖に接岸

- 1981(昭和56年)
 ・3月5日「しらせ」起工
 ・12月11日「しらせ」進水

1980

- 1982(昭和57年)
 第24次行動
 ・「ふじ」最後の航海
 ・延べ801名の観測隊員等及び8,523^トの物資を輸送



第19次行動において昭和基地のあるリュツォ・ホルム湾を進む「ふじ」の雄姿。8年ぶりの昭和基地沖接岸を果たした。



「ネラ・ダン」(豪)救出 「オーロラ・オーストラリス」(豪)救出

「宗谷」の時代には、氷に閉じ込められ外国船に救援を受けたこともあったが、「しらせ」の代になり2隻の外国船を氷海から救出した。

- 1982(昭和57年)
 ・11月12日「しらせ」就役
 1983(昭和58年)
 第25次行動
 ・「しらせ」初航海に出港
 1984(昭和59年)
 ・4月「ふじ」除籍



横須賀港に並んで停泊する「しらせ」(左)と「ふじ」。大きさの違いがよくわかる。



- 1992(平成4年)
 第33次行動
 ・チャージング回数 : 4,441回
 (「しらせ」最多記録)
 1993(平成5年)
 第34次行動
 ・昭和基地管理棟完成

1990

- 1994年(平成6年)
 第35次行動
 ・1月「しらせ」昭和基地沖接岸断念(昭和基地まで10マイル)
 ・貨油ドラム缶空輸(約2000本)
 ・「ドームふじ観測拠点」設置
 ・「ドームふじ」での氷床コア掘削に伴い大陸拠点に物資を空輸(～第39次行動)
 1994年(平成6年)
 第36次行動
 ・「ドームふじ観測拠点」で越冬開始
 1996(平成8年)
 第38次行動
 ・アムンゼン湾の露岩地帯に地学調査隊を空輸(～第42次行動)
 1997(平成9年)
 第39次行動
 ・初の女性隊員2名越冬
 1998(平成10年)
 第40次行動
 ・12月18日「しらせ」オーロラ・オーストラリス(豪)を救出



「しらせ」就役で輸送能力が向上したこともあり、昭和基地で大型建築物の建設ラッシュが続いた。(第32次～第39次行動)



新「しらせ」命名・進水式 2008(平成20年4月16日)

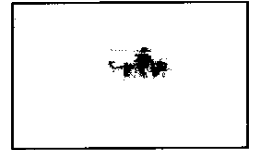
今後の予定 2009(平成21年) 新砕氷艦「しらせ」就役

2008

- 2002(平成14年)
 第44次行動
 ・NHK放送スタジオ建設 南極からハイビジョン放送
 ・4月「しらせ」遭難した豪ヨットの乗員2名を救助
 ・ドームふじ基地で氷床深層掘削開始
 2005(平成17年)
 第47次行動
 ・「しらせ」に初の女性乗組員(医官)乗艦
 ・大陸に日独共同航空機観測拠点を建設
 2007(平成19年)
 第49次行動
 ・「しらせ」最後の航海
 ・延べ1486名の観測隊員等及び24,898^トの物資を輸送



大陸の水上に設けられた航空機観測拠点。拠点建設のための建築資材等主要物資は、「しらせ」ヘリコプターで運ばれた。



「しらせ」搭載ヘリコプターは、昭和基地への物資空輸のみならず、厳しい自然環境の下、あすか・ドームふじ観測拠点設置のための資材空輸、アムンゼン湾地学調査隊の派遣、ドームふじで掘削した氷床コアの回収等で幅広く活躍してきた。

7次～49次行動の概要一覧

回次	7次	8次	9次	10次	11次	12次	13次	
年度	S40	S41	S42	S43	S44	S45	S46	
艦長	1佐 本多 敏治	1佐 松浦 光利	1佐 本多 敏治	1佐 松島 茂雄	1佐 磯辺 秀雄	1佐 大森 正人	1佐 前田 冬樹	
乗組員数	182人	182人	182人	182人	182人	182人	182人	
観測隊	隊長	村山 雅美	鳥居 鉄也	村山 雅美	楠 宏	松田 達郎	小口 高	清野 善兵衛
	隊員数	40人	40人	40人	40人	40人	39人	40人
	同行者数	7人	6人	5人	4人	3人	0人	0人
	航空機(昭和基地)	-	-	-	ロッキート LASA60型×1(夏期)	ロッキート LASA60型×1(夏期)	ロッキート LASA60型×1(夏期)	-
出国(東京晴海)	S40.11.20	S41.12.1	S42.11.25	S43.11.30	S44.11.25	S45.11.25	S46.11.25	
帰国(東京晴海)	S41.4.8	S42.4.19	S43.4.12	S44.4.25	S45.5.9	S46.5.4	S47.5.16	
行動日数	140日	140日	140日	147日	166日	161日	174日	
総航程(マイル)	22,525.8NM	21,922.9NM	22,041.7NM	21,579.3NM	19,889.3NM	20,248.8NM	19,878.4NM	
氷海行動	日数	37日	42日	42日	48日	79日	77日	89日
	航程(マイル)	564.0NM	664.3NM	377.6NM	491.4NM	499.0NM	488.0NM	237.4NM
	チャージング回数	50回	794回	1,470回	38回	1,940回	1,269回	6,737回
南極圏進入(南緯55°)	S40.12.17	S41.12.29	S42.12.21	S43.12.27	S44.12.22	S45.12.22	S46.12.22	
南極圏離脱(南緯55°)	S41.2.17	S42.2.28	S43.2.22	S44.3.7	S45.3.23	S46.3.23	S47.4.2	
南極圏再進入	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏再離脱	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏行動日数	63日	62日	64日	71日	92日	92日	103日	
昭和基地接岸	S41.1.27	S42.1.14	S43.1.13	S44.1.6	S45.1.5	なし。	なし。	
昭和基地離岸(北上開始)	S41.2.1	S42.2.6	S43.2.3	S44.2.20	S45.2.19	なし。	なし。	
昭和基地接岸日数	6日	24日	22日	46日	46日	0日	0日	
海上輸送量	391.4t	462.5t	508.7t	481.0t	485.7t	464.6t	471.2t	
輸送航空	物資	382.3t	437.5t	367.0t	375.0t	309.8t	464.6t	471.2t
	人員	311人	166人	227人	1,878人	254人	451人	1,539人
時飛行数	回数	324回	130回	114回	134回	167回	335回	441回
	時数	369.0h	169.4h	151.5h	173.6h	200.7h	341.7h	422.1h
基地建設作業支援延べ員数	363人	1014人	704人	815人	617人	368人	1135人	
寄港地	グリーンランド	S40.12.5～12.11	S41.12.16～12.22	S42.12.10～12.16	S43.12.15～12.21	S44.12.10～12.16	S45.12.10～12.16	S46.12.10～12.16
	ケープタウン	S41.2.24～3.3	S42.3.8～3.14	S43.3.1～3.7	S44.3.14～3.20	S45.3.29～4.4	S46.3.29～4.3	S47.4.10～4.14
	コロンボ	S41.3.19～3.23	S42.3.30～4.3	S43.3.23～3.27	S44.4.5～4.9	-	-	-
	ジャカルタ					-	-	S47.5.3～5.5
	シガポール					-	-	-
	モリヤス					-	-	-
	シドニー					-	-	-
主な支援内容	基地清掃、発電機整備、陸上ハリホー卜建設、冷凍棟建設、発電棟建設等	管理棟建設、観測棟建設、食堂棟建設、作業棟建設、地震計室建設等	新発電棟建設、通路棟建設、新居住棟建設等	新発電棟建設、新居住棟建設、検潮儀室建設、作業棟建設等	第1倉庫建設、第2倉庫建設、地震感震室建設等	水道工事、冷凍機整備、ハリホー卜整備、発電棟整備等	冷凍機整備、新居住棟配線、第2ハリホー卜建設、燃料タンク設置等	
備考								

7次～49次行動の概要一覧

回次	14次	15次	16次	17次	18次	19次	20次	
年度	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	
艦長	1 佐 前田 冬樹	1 佐 森田 衛	1 佐 森田 衛	1 佐 蔵本 恒造	1 佐 蔵本 恒造	1 佐 田辺 元起	1 佐 田辺 元起	
乗組員数	182人	182人	182人	182人	182人	182人	182人	
観測隊	隊長	楠 宏	村山 雅美	星合 孝男	芳野 赴男	楠 宏	平澤 威男	吉田 栄夫
	隊員数	40人	40人	40人	39人	40人	40人	42人
	同行者数	1人	2人	3人	4人	4人	4人	13人
	航空機(昭和基地)	-	-	-	-	7機×1(夏期)	-	7機×1(夏期)
出国(東京晴海)	S47.11.25	S48.11.25	S49.11.25	S50.11.25	S51.11.25	S52.11.25	S53.11.25	
帰国(東京晴海)	S48.4.20	S49.4.20	S50.4.20	S51.4.19	S52.4.20	S53.4.20	S54.4.20	
行動日数	147日	147日	147日	147日	147日	147日	147日	
総航程(マイル)	20,524.9NM	22,650.5NM	20,397.1NM	18,517.8NM	20,186.6NM	18,393.3NM	17,854.0NM	
氷海行動	日数	54日	50日	57日	56日	50日	59日	60日
	航程(マイル)	327.1NM	1,271.5NM	439.5NM	186.7NM	1,076.4NM	1,022.2NM	495.9NM
	チャージング回数	2,018回	42回	1,116回	1,283回	756回	699回	3,390回
南極圏進入(南緯55°)	S47.12.22	S48.12.22	S49.12.22	S50.12.22	S51.12.22	S52.12.22	S53.12.21	
南極圏離脱(南緯55°)	S48.3.2	S49.3.2	S50.3.2	S51.3.1	S52.3.2	S53.3.2	S54.3.1	
南極圏再進入	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏再離脱	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏行動日数	71日	71日	71日	71日	71日	71日	71日	
昭和基地接岸	なし。	なし。	なし。	なし。	なし。	S53.1.17	なし。	
昭和基地離岸(北上開始)	なし。	なし。	なし。	なし。	なし。	S53.2.3	なし。	
昭和基地接岸日数	0日	0日	0日	0日	0日	18日	0日	
海上輸送量	473.4t	485.8t	469.9t	497.9t	493.6t	489.1t	498.1t	
輸送航空	物資	473.4t	485.8t	469.9t	497.9t	493.6t	354.6t	497.9t
	人員	908人	1,007人	1,092人	1,282人	1,110人	437人	591人
時飛行回数	回数	370回	390回	376回	339回	368回	281回	325回
	時数	370.3h	307.7h	317.6h	333.2h	325.7h	185.7h	344.8h
基地建設作業支援延べ員数	822人	859人	898人	1042人	952人	593人	777人	
寄港地	フリマントル	S47.12.10～12.16	S48.12.11～12.16	S49.12.11～12.16	S50.12.11～12.16	S51.12.11～12.16	S52.12.11～12.16	S53.12.10～12.15
	ケプタウン	S48.3.9～3.15	S49.3.9～3.15	S50.3.7～3.14	-	-	-	-
	コソボ	-	-	-	-	-	-	-
	ジャカルタ	-	-	-	-	-	-	-
	シガポール	S48.4.3～4.9	S49.4.3～4.9	S50.4.3～4.9	S51.3.31～4.7	S52.4.1～4.8	S53.4.1～4.8	S54.4.1～4.8
	モリヤス	-	-	-	S51.3.11～3.16	S52.3.17～3.18	S53.3.9～3.16	S54.3.10～3.16
ジド	-	-	-	-	-	-	-	
主な支援内容	気象棟建設、工作棟建設、温室建設、冷凍機整備、発電棟建設等	環境科学棟建設、冷凍機整備、発電機エンジン交換、発電機ホールホール等	送信棟建設、冷凍機撤去・新設、暗室改修、車両整備等	冷凍機整備、作業棟整備、レトリ・アンテナ設置、ラジエーター室暖房整備等	電離層棟建設、既設建物補修、車両整備組立、海中アース設置、130トの水槽整備等	地学棟・水素ガス発生室建設、既設建物補修、車両整備組立、燃料送油管換装等	夏期宿舍建設、新地学棟内装、既設建物補修、車両整備組立等	
備考								

7次～49次行動の概要一覧

回次	21次	22次	23次	24次	25次	26次	27次	
年度	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	
艦長	1佐 根井 繁	1佐 根井 繁	1佐 竹内 秀一	1佐 竹内 秀一	1佐 佐藤 保	1佐 佐藤 保	1佐 倉田 篤	
乗組員数	182人	182人	182人	182人	173人	174人	174人	
観測隊	隊長	木崎 甲子郎	吉田 栄夫	星合 孝男	前 晋爾	平澤 威男	川口 貞男	吉田 栄夫
	隊員数	43人	44人	44人	45人	47人	48人	50人
	同行者数	1人	0人	2人	5人	12人	9人	5人
	航空機(昭和基地)	セナ×1 ピラヌ×1(越冬)	セナ×1 ピラヌ×1(越冬)	-	セナ×1 ピラヌ×1(越冬)	ピラヌ×1 セナ×1	-	セナ×1 ピラヌ×1(越冬)
出国(東京晴海)	S54.11.21	S55.11.25	S56.11.25	S57.11.25	S58.11.14	S59.11.14	S60.11.14	
帰国(東京晴海)	S55.4.19	S56.4.20	S57.4.20	S58.4.20	S59.4.19	S60.4.20	S61.4.20	
行動日数	151日	147日	147日	147日	158日	158日	158日	
総航程(マイル)	21,395.2NM	20,776.1NM	19,424.2NM	19,546.0NM	21,802.8NM	22,541.4NM	22,109.0NM	
氷海行動	日数	45日	51日	52日	56日	72日	72日	75日
	航程(マイル)	592.3NM	1,522.9NM	817.7NM	969.5NM	2,647.3NM	4,082.8NM	4,110.0NM
	チャージング回数	58回	48回	1,600回	108回	848回	0回	513回
南極圏進入(南緯55°)	S54.12.18	S55.12.22	S56.12.22	S57.12.22	S58.12.8	S59.12.8	S60.12.8	
南極圏離脱(南緯55°)	S55.2.16	S56.3.2	S57.3.2	S58.3.2	S59.2.27	S60.3.6	S61.3.6	
南極圏再進入	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏再離脱	-	-	-	-	-	-	-	
南極圏行動日数	61日	71日	71日	71日	82日	89日	89日	
昭和基地接岸	なし。	なし。	なし。	なし。	S59.1.5	S60.1.4	S61.1.4	
昭和基地離岸(北上開始)	なし。	なし。	なし。	なし。	S59.2.1	S60.2.2	S61.2.7	
昭和基地接岸日数	0日	0日	0日	0日	28日	30日	35日	
海上輸送量	445.7t	448.8t	490.1t	472.0t	811.4t	777.8t	897.6t	
輸送航空	物資	442.8t	446.8t	490.1t	469.6t	425.3t	392.6t	454.0t
	人員	1,163人	2,086人	1,533人	1,779人	950人	1,578人	2,256人
時飛行数	回数	320回	404回	393回	375回	389回	389回	484回
	時数	183.1h	269.6h	310.4h	324.0h	291.7h	228.0h	298.6h
基地建設作業支援延べ員数	627人	468人	476人	519人	680人	512人	617人	
寄港地	グリーンランド	S54.12.6～12.12	S55.12.11～12.16	S56.12.11～12.16	S57.12.11～12.16	S58.11.28～12.3	S59.11.28～12.3	S60.11.28～12.3
	ケプタウン	S55.2.21～2.29	-	-	-	S59.3.3～3.5	-	-
	コソボ	-	-	-	-	-	-	-
	ジャカルタ	-	-	-	-	-	-	-
	シガポール	S55.4.1～4.7	S56.4.1～4.8	S57.4.1～4.8	S58.4.1～4.8	S59.4.2～4.8	S60.4.3～4.9	S61.4.2～4.9
	モリヤス	S55.3.10～3.17	S56.3.11～3.17	S57.3.11～3.17	S58.3.11～3.17	S59.3.14～3.20	S60.3.14～3.21	S61.3.14～3.21
ジド	-	-	-	-	-	-	-	
主な支援内容	60kl燃料タンク設置、夏期 宿舎建設、既設建物補 修、雪上車組立整備 等	情報処理棟建設、電離棟 外壁補修工事、車両整備 組立、冷凍機整備 等	新発電棟基礎工事、 130kl水槽撤去、100kl水 槽組立、雪上車組立整備 等	新発電棟建設、観測棟改 修工事、30mアンテナ展針張 工事、雪上車組立整備 等	130kl水槽設置、100kl水 槽基礎工事、発電棟通路 建設、造水装置組立設 置、室内水槽設置 等	仮作業棟建設、200KVA発 電機設置、消化ポンプ小 屋設置、100klタンク熱交換 器設置 等	コンクリートラント、発電機整 備、冷凍機整備、作業工 作棟建設 等	
備考				58.4.12南シナ海 バマ船医療支援			S60.12.3-16 杉・ガン号(豪)救出	

7次～49次行動の概要一覧

回次	28次	29次	30次	31次	32次	33次	34次	
年度	S61	S62	S63	S64/H1	H2	H3	H4	
艦長	1 佐 倉田 篤	1 佐 本田 守忠	1 佐 上垣 毅	1 佐 上垣 毅	1 佐 斎藤 公則	1 佐 斎藤 公則	1 佐 久松 武宏	
乗組員数	173人	174人	174人	174人	174人	173人	173人	
観測隊	隊長	星合 孝男	渡邊 興亜	江尻 全機	内藤 靖彦	國分 征	福地 光男	佐藤 夏雄
	隊員数	52人	52人	54人	55人	55人	53人	55人
	同行者数	6人	8人	5人	4人	2人	2人	2人
	航空機(昭和基地)	7機×1 ビラヌ×1(越冬)	7機×1 ビラヌ×1(収容)	ビラヌ×2(越冬)	ビラヌ×1 7機×1 ヘリ×2(あすか)	ビラヌ×1 7機×1(越冬)	ビラヌ×1(収容) 7機×1	ビラヌ×1 7機×1(越冬)
出国(東京晴海)	S61.11.14	S62.11.14	S63.11.14	H1.11.14	H2.11.14	H3.11.14	H4.11.14	
帰国(東京晴海)	S62.4.20	S63.4.12	H1.4.13	H2.4.13	H3.4.13	H4.4.12	H5.4.13	
行動日数	158日	151日	151日	151日	151日	151日	151日	
総航程(マイル)	21,201.1NM	22,434.2NM	25,624.8NM	22,395.2NM	20,257.5NM	21,183.6NM	20,842.6NM	
氷海行動	日数	68日	74日	80日	71日	78日	70日	79日
	航程(マイル)	2,159.5NM	4,355.4NM	2,098.8NM	3,120.5NM	2,077.5NM	1,451.4NM	3,626.8NM
	チャージング回数	235回	42回	961回	2,364回	3,026回	4,441回	3,126回
南極圏進入(南緯55°)	S61.12.8	S62.12.8	S63.12.8	H1.12.8	H2.12.8	H3.12.8	H4.12.8	
南極圏離脱(南緯55°)	S62.3.6	S63.3.15	H1.1.29	H2.3.16	H3.3.16	H4.3.15	H5.3.16	
南極圏再進入	-	-	H1.2.7	-	-	-	-	
南極圏再離脱	-	-	H1.3.16	-	-	-	-	
南極圏行動日数	89日	99日	91日	99日	99日	99日	99日	
昭和基地接岸	S62.1.9	S63.1.2	S63.12.29	H2.1.14	H3.1.6	H4.1.4	H4.12.30	
昭和基地離岸(北上開始)	S62.2.4	S63.2.5	H1.1.16	H2.2.1	H3.2.9	H4.2.11	H5.2.9	
昭和基地接岸日数	27日	35日	19日	19日	35日	39日	42日	
海上輸送量	916.3t	913.2t	966.1t	815.2t	970.5t	891.0t	956.6t	
輸送航空	物資	558.5t	430.4t	445.5t	388.2t	492.7t	326.3t	536.7t
	人員	1,978人	2,345人	1,160人	1,945人	1,506人	1,557人	2,134人
時飛行数	回数	539回	520回	412回	413回	504回	156回	176回
	時数	335.3h	307.5h	303.6h	290.2h	253.0h	196.6h	265.9h
基地建設作業支援延べ員数	596人	597人	369人	451人	599人	632人	607人	
寄港地	フリマントル	S61.11.28～12.3	S62.11.28～12.3	S63.11.28～12.3	H1.11.28～12.3	H2.11.28～12.3	H3.11.28～12.3	H4.11.28～12.3
	ケプタウン	-	-	H1.2.3～2.4	-	-	-	-
	コロンボ	-	-	-	-	-	-	-
	ジャカルタ	-	-	-	-	-	-	-
	シガポール	S62.4.3～4.9	-	-	-	-	-	-
	モリヤス	S62.3.14～3.21	-	-	-	-	-	-
ジドコ	-	S63.3.20～3.26	H1.3.21～3.27	H2.3.21～3.27	H3.3.21～3.27	H4.3.20～3.26	H5.3.21～3.27	
主な支援内容	あすか観測拠点建設支援、送電機整備、防雪庇工事、冷凍機整備等	あすか観測拠点建設支援、大型アンテナ基礎建設、衛生受信棟建設等	あすか観測拠点建設支援、大型アンテナ建設、航空機組立、200kl貯油タンク建設等	あすか観測拠点建設支援、配線用屋外タンク建設、冷凍機整備、200kl貯油タンク建設等	あすか観測拠点建設支援、管理棟建設、外灯設置、冷凍機整備、200kl貯油タンク建設等	あすか観測拠点建設支援、管理棟建設、冷凍機整備、200kl貯油タンク油槽内袋交換等	管理棟内装、焼却炉棟建設、冷凍機整備、ガス小屋建設、等	
備考								

7次～49次行動の概要一覧

回次	35次	36次	37次	38次	39次	40次	41次
年度	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11
艦長	1佐 久松 武宏	1佐 加藤 達雄	1佐 加藤 達雄	1佐 帖佐 正和	1佐 帖佐 正和	1佐 茂原 清二	1佐 茂原 清二
乗組員数	173人	174人	174人	173人	174人	174人	174人
観測隊	隊長	渡邊 興亜	上田 豊	藤井 理行	山内 恭	澁谷 和雄	白石 和行
	隊員数	56人	56人	56人	58人	58人	60人
	同行者数	3人	1人	2人	6人	6人	4人
	航空機(昭和基地)	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	-	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	-	-
出国(東京晴海)	H5.11.14	H6.11.14	H7.11.14	H8.11.14	H9.11.14	H10.11.14	H11.11.14
帰国(東京晴海)	H6.4.13	H7.4.13	H8.4.12	H9.4.13	H10.4.13	H11.4.13	H12.4.12
行動日数	151日	151日	151日	151日	151日	151日	151日
総航程(マイル)	20,864.4NM	19,540.4NM	19,968.5NM	21,989.4NM	26,878.5NM	21,102.9NM	21,438.0NM
氷海行動	日数	79日	77日	74日	67日	71日	83日
	航程(マイル)	3,553.3NM	1,938.0NM	2,226.9NM	1,321.3NM	3,631.2NM	3,240.1NM
	チャージング回数	3,323回	2,629回	2,924回	2,787回	469回	387回
南極圏進入(南緯55°)	H5.12.8	H6.12.8	H7.12.8	H8.12.8	H9.12.8	H10.12.8	H11.12.8
南極圏離脱(南緯55°)	H6.3.16	H7.3.16	H8.3.15	H9.2.23	H10.1.11	H11.3.16	H12.3.15
南極圏再進入	-	-	-	H9.3.4	H10.1.19	-	-
南極圏再離脱	-	-	-	H9.3.16	H10.3.16	-	-
南極圏行動日数	99日	99日	99日	91日	92日	99日	99日
昭和基地接岸	なし。	H6.12.24	H7.12.24	H8.12.27	H9.12.16	H10.12.28	H11.12.24
昭和基地離岸(北上開始)	なし。	H7.2.15	H8.2.12	H9.2.14	H10.1.8	H11.2.20	H12.1.19
昭和基地接岸日数	0日	54日	51日	50日	24日	55日	27日
海上輸送量	1,002.2t	1,081.7t	1,081.7t	1,031.5t	1,070.4t	1,029.2t	1,127.4t
輸送航空	物資	783.5t	462.8t	438.1t	386.4t	393.1t	312.1t
	人員	1,297人	1,026人	1,392人	1,229人	2,593人	2,793人
時飛行数	回数	192回	553回	535回	504回	573回	580回
	時数	386.7h	237.1h	248.1h	273.8h	273.7h	301.9h
基地建設作業支援延べ員数	405人	585人	589人	610人	523人	797人	724人
寄港地	クワンタール	H5.11.28～12.3	H6.11.28～12.3	H7.11.28～12.3	H8.11.28～12.3	H9.11.28～12.3	H10.11.28～12.3
	ケプタウ	-	-	-	-	H10.1.15～1.16	-
	コソボ	-	-	-	-	-	-
	ジャカルタ	-	-	-	-	-	-
	シガポール	-	-	-	-	-	-
	モリヤス	-	-	-	-	-	-
	H6.3.21～3.27	H7.3.21～3.27	H8.3.20～3.26	H9.3.23～3.27	H10.3.21～3.27	H11.3.21～3.27	H12.3.20～3.26
主な支援内容	丸タケ補修・解体、管理棟屋根防水工事、通路棟新設、冷凍機整備等	通信アンテナ建設、環境科学棟補修、気象棟改修、HFレーダーアンテナ建設、冷凍機整備等	発電機換装、管理棟改修、倉庫棟建設、非常発電機棟建設等	HFアンテナ建設、通信アンテナ建設、汚水処理棟建設、太陽光発電装置設置等	第2居住棟建設、通路棟建設、太陽光発電装置ケーブル敷設、観測拠点補強等	発電設備改修、居住棟移設、太陽光発電装置組立、HFレーダーアンテナ組立等	廃棄物保管庫建設、風力発電装置建設、太陽光発電装置増設、HFレーダーアンテナ移設等
備考	定着氷厚く昭和基地沖接岸できず。					H10.12.18 オ-07・オ-ストリス号(豪)救出	

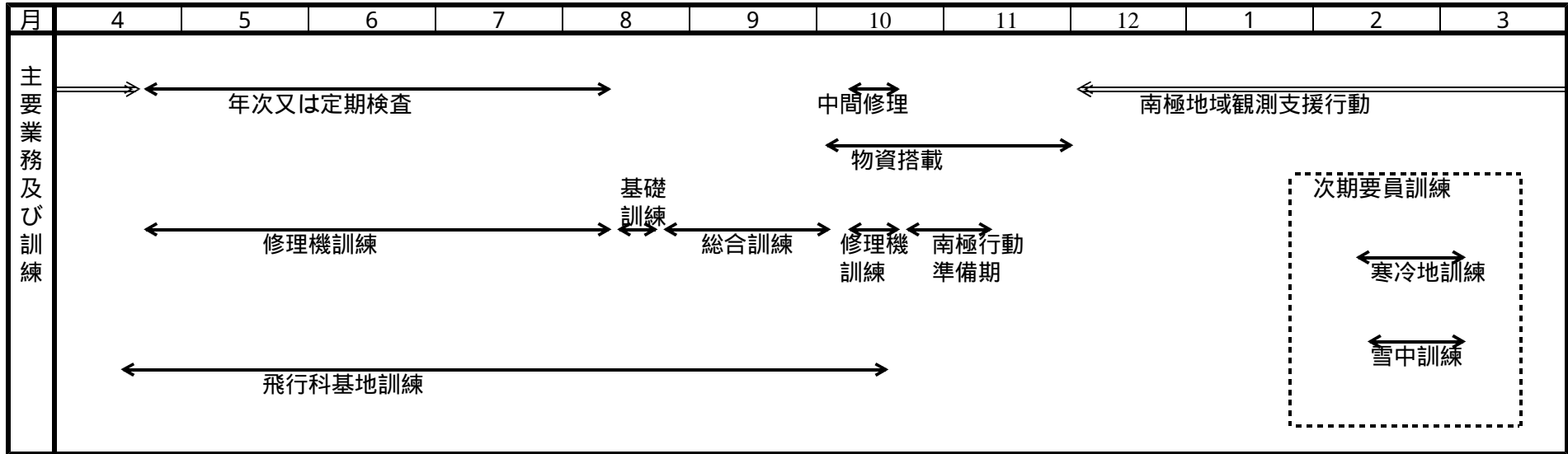
7次～49次行動の概要一覧

回次	42次	43次	44次	45次	46次	47次	48次	
年度	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	
艦長	1佐 石角 義成	1佐 石角 義成	1佐 原口 一之	1佐 原口 一之	1佐 大平 慎一	1佐 大平 慎一	1佐 小梅 三津男	
乗組員数	174人	173人	174人	171人	169人	171人	171人	
観測隊	隊長	本吉 洋一	西尾 文彦	鮎川 勝	神田 啓史	松原 廣司	白石 和行	宮岡 宏
	隊員数	60人	56人	57人	56人	55人	53人	56人
	同行者数	5人	7人	10人	8人	3人	6人	4人
	航空機(昭和基地)	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	ビラリス×1 セナ×1(収容)	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	ビラリス×1 セナ×1(越冬)	ビラリス×1、セナ×1(収容) BK117×1(夏期)	-	-
出国(東京晴海)	H12.11.14	H13.11.14	H14.11.14	H15.11.14	H16.11.14	H17.11.14	H18.11.14	
帰国(東京晴海)	H13.4.13	H14.4.13	H15.4.13	H16.4.12	H17.4.13	H18.4.13	H19.4.13	
行動日数	151日	151日	151日	151日	151日	151日	151日	
総航程(マイル)	20,983.5NM	23,059.6NM	21,690.5NM	21,156.6NM	21,062.1NM	22,140.0NM	21,433.0NM	
氷海行動	日数	71日	64日	70日	65日	69日	63日	63日
	航程(マイル)	1,189.7NM	742.2NM	642.5NM	441.6NM	1,177.5NM	809.7NM	771.1NM
	チャージング回数	1,616回	456回	319回	0回	1,365回	663回	392回
南極圏進入(南緯55°)	H12.12.8	H13.12.8	H14.12.8	H15.12.8	H16.12.8	H17.12.8	H18.12.8	
南極圏離脱(南緯55°)	H13.3.16	H14.2.21	H15.3.16	H16.3.15	H17.3.16	H18.3.16	H19.3.16	
南極圏再進入	-	H14.3.2	-	-	-	-	-	
南極圏再離脱	-	H14.3.16	-	-	-	-	-	
南極圏行動日数	99日	91日	99日	99日	99日	99日	99日	
昭和基地接岸	H12.12.30	H13.12.23	H14.12.26	H15.12.21	H16.12.21	H17.12.24	H18.12.23	
昭和基地離岸(北上開始)	H13.1.22	H14.1.19	H15.1.29	H16.1.3	H17.1.15	H18.1.7	H19.1.16	
昭和基地接岸日数	24日	28日	35日	14日	26日	15日	25日	
海上輸送量	1,135.3t	1,122.4t	1,133.2t	1,119.0t	1,006.9t	1,081.6t	1,109.3t	
輸送空	物資	481.5t	472.1t	630.4t	510.2t	591.4t	555.5t	507.1t
	人員	2,490人	2,236人	2,421人	2,460人	2,259人	2,382人	2,616人
時飛行	回数	644回	652回	676回	553回	615回	582回	602回
	時数	291.6h	283.2h	306.4h	226.8h	251.5h	259.4h	276.6h
基地建設作業支援延べ員数	632人	548人	535人	548人	494人	447人	590人	
寄港地	フリマントル	H12.11.28～12.3	H13.11.28～12.3	H14.11.28～12.3	H15.11.28～12.3	H16.11.28～12.3	H17.11.28～12.3	H18.11.28～12.3
	ケプタウン	-	-	-	-	-	-	-
	コロンボ	-	-	-	-	-	-	-
	ジャカルタ	-	-	-	-	-	-	-
	シガポール	-	-	-	-	-	-	-
	モリヤス	-	-	-	-	-	-	-
	H13.3.21～3.27	H14.3.21～3.27	H15.3.21～3.27	H16.3.20～3.26	H17.3.21～3.27	H18.3.21～3.27	H19.3.21～3.27	
主な支援内容	光学観測棟建設、旧食堂棟撤去、倉庫棟屋根補修、廃棄物集積所建設等	送電線更新、通信ケーブル更新・埋設、オロラレーダーアンテナ設置、2号発電機オハールホール等	燃料配管設置、太陽光発電ハルホ改修、1号発電機オハールホール等	燃料配管設置、太陽光ハルホ改修、2号発電機オハールホール、道路補修・廃棄物処理等	風力発電設備建設、夏宿配水管工事、東カケル島内全体清掃、廃棄物処理等	日独協同航空機観測拠点建設、太陽光発電ハルホ設置、東カケル島内全体清掃等	日独協同航空機観測拠点建設、道路工事、潮位計設置、東カケル島内全体清掃等	
備考			H15.4.13ツトMAD・MAX号(豪)乗員救出	氷厚薄くチャージング回数0回。			スノコ漁船船員医療支援 18.12.29-12.30	

7次～49次行動の概要一覧

回次	49次	ふじ小計	しらせ小計	合計	
年度	H19				
艦長	1 佐品川 隆				
乗組員数	171人	3,276人	4,326人	7,602人	
観測隊	隊長	伊村 智			
	隊員数	49人	736人	1,367人	2,103人
	同行者数	5人	64人	131人	195人
	航空機(昭和基地)	-	800人	1,498人	2,298人
出国(東京晴海)	H19.11.14				
帰国(東京晴海)	H20.4.12				
行動日数	151日	2689日	3803日	6492日	
総航程(マイル)	19,835.2NM	367,751.9NM	543,534.8NM	911,286.7NM	
氷海行動	日数	76日	1004日	1804日	2808日
	航程(マイル)	1,372.7NM	12,043.4NM	55,833.1NM	67,876.5NM
	チャージング回数	2,691回	23,416回	36,650回	60,066回
南極圏進入(南緯55°)	H19.12.8				
南極圏離脱(南緯55°)	H20.3.15				
南極圏再進入	-				
南極圏再離脱	-				
南極圏行動日数	99日				
昭和基地接岸	H19.12.26				
昭和基地離岸(北上開始)	H20.1.26				
昭和基地接岸日数	32日	162日	769日	931日	
海上輸送量	850.9t	8,529.5t	24,898.4t	33,427.9t	
輸送空	物資	423.3t	7,929.8t	11,763.9t	19,693.7t
	人員	3,045人	17,814人	50,016人	67,830人
時飛行数	回数	554回	5,586回	12,383回	17,969回
	時数	316.4h	5,100.1h	6,986.9h	12,087.0h
基地建設作業支援延べ員数	566人	13049人	14253人	27302人	
寄港地	フリマントル	H19.11.28～12.3			
	ケプタウン	-			
	コロンボ	-			
	ジャカルタ	-			
	シンガポール	-			
	モリシャス	-			
	ジドコ	H20.3.20～3.26			
主な支援内容	燃料配管高架台基礎工事、道路工事、焼却炉及び煙道交換、東オガール島内全体清掃等				
備考					

年間教育訓練等スケジュールの例



(参考)

- 1 修理期訓練(約4カ月)：年次検査又は定期検査と並行して、乗組員に装備機器の構造、作動及び取扱いに習熟させるとともに、共通的な訓練及び新乗艦者の特別教育等を実施。
また、南極地域観測支援行動に必要な特殊な技能については、部外に講習を依頼。
- 2 基礎訓練(約2週間)：修理期訓練終了後、乗組員の基礎的な術力を向上させ、通常の航海に支障のない練度の確立を図る。
- 3 総合訓練(約5週間)：基礎訓練終了後、日本周辺海域を巡航しつつ、各種訓練を繰り返し実施して、南極地域観測支援行動に支障のない練度の確立を図る。
なお、総合訓練中、寄港地において一般公開を実施。
- 4 飛行科基地訓練：例年4月下旬から11月下旬までの間、海自館山航空基地において飛行訓練を行い、南極における飛行に支障のない練度の確立を図る。